



やったー！



イニシ

◎巻き上げからのフォールでバイトしてきた



楽しい



コイツはコレでっ！

▲シーバスの活性が低いときは波動の弱いパンブルズジグ TG SLJ 60グラムのタダ巻きで食わせた
▲アベレージは40~50センチ級

吉岡進の釣りを楽しく感じるままに

E2F

Enjoy Every Fishing no.11

東京湾のシーバスジギング

撮影◎本誌編集部



◎東京湾のシーバスジギングはシーバースなどの建造物周りや沖の根周りなど、様々なポイントを狙う

▲アンダーハンドでジグをキャストし、橋脚の際を探ってヒット

◎底から水深の半分ほど巻き上げてジグを追わせてフォールさせると、ジグがヒラッと落ちたときに食ってくる。巻きで誘うときは巻き上げ速度を早くしたり遅くしたりして変化を付けよう。

シーバスジギングの釣り方

フォールと巻き上げ



前半はシーバスの活性が低くピンポイントに魚が着いていた



ヨッシーこと吉岡進が得意とする東京湾のシーバスジギング。東京湾に点在する建造物周り（ストラクチャー）で40~50センチ前後のシーバスを主体に60~70センチ級交じりでトップ30~50本という釣れっぷり。
1月下旬に釣行したのはルアーシーバス乗合で出船している東京湾奥川崎つり幸。水野船長が向かったのは東京湾アクアラインの橋脚周りの水深20メートル前後。

◎東京湾アクアラインの橋脚を狙う。ストラクチャーなどを狙うことが多いため、当日は片舷に並んで釣りをした



楽しいね
シーバスジギング

★終盤にシーバスの捕食スイッチが入り、このサイズが連発



▲取り込みはリーダーをつかんで抜き上げる。良型の場合はタモ取りしよう



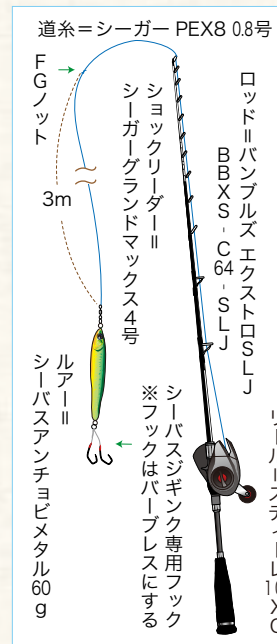
▲リリースするときは魚に触れず、プライヤーでフックを外すといい

◆本編（54ページより）は高橋剛が執筆。船釣りの楽しさをヨッシーとともにお伝えします！

#Enjoy Every Fishing Tackle guide

シーバスジギングタックル

●「ジグを落として巻く」を繰り返す釣りのためベイトタックルが基本。竿をさほど選ばないのがシーバスジギングのいいところ。長さは1.8メートル前後、60グラム前後のジグを背負えればなんでもOK。専用ロッドもあるがヨッシーはSLJ(スーパーライトジギング)ロッドをチョイス。



▲ジグはシーバスアンチヨビメタルの60グラム。カラーは表と裏でカラーが違う新色で左からコノシロ明減チャート、グリキンボーダー、UVフラッシュ。安全面や、魚体をなるべく傷つけないためにもカエシは潰しておく



▲シーバスが吐き出したカタクチイワシ。捕食しているベイトにルアーのサイズを合わせると効果的



▲タダ巻きで50センチ前後が連発



▲風の塔では巻き上げでもフォールでもよく釣れた
▲1本釣れてひと安心



★シーバスアンチヨビメタルのフォールで60センチ級を釣り上げた



SEABASS ANCHOVY METAL グリキンボーダー



●川崎市浮島の沖にある風の塔はシーバスジギングの好ポイント

▲良型のタチウオが交じった

#船宿インフォメーション information

東京湾奥川崎 つり幸

☎044-266-3189 (詳細は巻末の情報欄参照)

●川崎駅から約3キロで電車でもアクセスがいい(送迎あり)。シーバス船の舵を握る水野船長は、こまめなポイント移動でテンポよく釣りが楽しめる。アナウンスでいいねにタナや釣り方などを教えてくれるからビギナーでも安心して釣りができる。

●料金=ルアーシーバス乗合1万円(氷付き)
●備考=予約乗合、6時50分出船



▲広い船内でゆったりと東京湾の釣りが楽しめる



▲店前にある乗船名簿へ記入して店内で受付を済ませてから乗船する
▼水野 聡船長(写真中央)



▼ミヨシの突き出しで釣りトップ33本



よく引く

橋脚の際を狙いヨッシーは45センチ級のシーバスを釣り上げる。船内でもポツポツ釣れるものの長くは続かず、その後はアタリが遠のき風の塔や羽田沖などを転々とするが、潮が動いていないためか、魚探に反応があってもシーバスが口を使ってくれない。午後になり上げ潮が動くタイミシングに合わせて再び風の塔の水深25メートル前後へ移動。開始の合図とともにアンダーハンドキャストでストラクチャーの際を狙う。シーバスが掛かると捕食スイッチが入ったようでダブル、トリプルヒットと盛り上がり、巻き上げでもフォールでもなんでも食ってくるフィーバータイムに突入し、大満足の一日となった。新色のジグを携えてシーバス釣りを心ゆくまで堪能したヨッシー。詳しくは54ページから始まる本編にて。